

2020年8月5日

東京電力ホールディングス株式会社

第 885 回 審査会合における指摘事項

建物・構築物における地震応答解析モデルの既工認からの変更点

< 隣接建屋影響 >

- (1) 非線形領域に入る原子炉本体基礎に支持される機器に線形の応答倍率を用いた隣接影響評価を適用することについて、原子炉本体基礎の非線形挙動に伴う応答性状の変化（周期特性が長周期化）の影響も含めて妥当性を説明すること。
- (2) 建屋連成解析で耐震評価する機器に対して、建屋との接続点における隣接応答倍率を用いた評価の適用性について、建屋との共振による応答増幅の可能性も考慮した上で説明すること。

以上